

第 14 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和5年1月25日(水)

開催時間 午後3時30分から午後4時20分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 手島 俊樹
教育長職務代理者 岡部 和子
委員 小澤 幸子、長澤 重俊、橋本 幸子

出席職員 教育次長 降 簾 友宏
教育監事 萩原 章司
理事 藤原 鉄也
次長(総務課長) 河野 公紀
教育企画室長 望月 勝一
福利給与課長 田草 川 耕
学校施設課長 古屋 ひとみ
高校教育課長 高見澤 圭一
義務教育課長 秋山 克也
特別支援教育・児童生徒
支援課長 鷹野 美香
生涯学習課長 成島 仁
保健体育課長 金井 哲也
総務課政策企画監 武井 俊人
総務課課長補佐 前島 宏文
総務課主事 数野 浩己

高校教育課
主幹・管理主事 大須賀 和浩

傍聴人 0名

報道 0名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

松坂委員から都合により会議を欠席する旨の届け出があった。
議案第41号については、個人情報に関する案件である旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

1 議 案

第41号 山梨県社会教育委員の委嘱について

〔説明〕生涯学習課

(非公開：会議の要旨)

山梨県社会教育委員の委嘱・任命について、委嘱の基準や委員の欠員等に関する説明、委嘱・任命する委員名簿の提示があり、全委員の賛同により原案どおり決定された。

【原案どおり決定】

2 報告事項

(8) 第7回大村智自然科学賞表彰対象者の決定および表彰式の実施について

〔説明〕高校教育課

小澤委員 高校生部門が全国で何位という話がありましたけれど、山梨県はこのアブラナのこと以外にシャボン玉について等、複数の高校生達の取り組みが全国レベルで評価されているということが分かり、非常に頼もしいなと思いました。きつとご指導される先生方のご苦勞もあったのだと思いますけれども、積極的にこういったものに取り組む素地が高校教育の中で育っていることは非常に喜ばしいことだと思います。
ありがとうございました。

【 了 知 】

3 その他報告

(19) 令和5年度「山梨県学校教育指導重点」について

[説明] 高校教育課

岡部委員 やはり気になるのは、表紙の日常生活で営まれる基本的な生活様式の記載についてです。学校では呪文のように唱えられているであろう手洗いや咳エチケットなどをチェックさせるようになっていきます。事前に意見を求められた時に、昨年記載されていた、「自分のため、みんなのため、そして大切な人のために。それが私たちの未来をつくれます」という記載の方がはるかに良いのではないかとお伝えしたと思います。もうマスクもいらなくなるし、やはり学校教育で訴えるには昨年の記載の方が良いのではないのでしょうか。その説明がなかったので教えていただきたいのですが。

高見澤課長 この基本的な生活様式については、厚生労働省のホームページで示されている記載がチェックリスト形式になっており、リンクして同じように記載しているためこのような形になっております。ご指摘いただいていること等につきましては、今後説明会の中でまた触れていきたいと考えております。

岡部委員 昨年度も厚生労働省の記載を引用したんですね。

高見澤課長 はい。

岡部委員 子供たちは三密も言えるし、手洗い、手指消毒も既に行っている中で、記載の内容は、昨年度の方が心に訴えやすいかなと思ったのですが、今年度の記載の下に厚生労働省のホームページより抜粋と書いてあるので、そういう意向でいきたいということが分かりました。理解しました。

長澤委員 これは学校ではどのように活用されるんですか。

高見澤課長 まず学校にそれぞれ説明する中で、これを踏まえて学校の教育目標を定めてもらいます。令和5年度分につきましては2月中に示し、それぞれの学校の実態に応じて、更にどこを重点的に学校で取り組んでいくのかということの参考にしてもらいます。また、日常的にも参考になる資料もございますので、その点についても活用をお願いしています。

長澤委員 結構日常的にも使うものなんですか。

高見澤課長 活用してもらいたいと考えております。

長澤委員 あとで令和4年度分を見せてもらえればと思います。

- 岡部委員 2点お願いします。事前の意見照会で、昨年と同じようにSOSも載せていただきたいと書いたと思います。自殺が多い県で、やはりそこを見逃してはいけないと思います。そして、昨年学校防災計画等の評価や見直しの記載があったので、今回も防災について、災害時のガイドラインやQRコードだけでもいいから載せてほしいと書いたような気がするのですが。
もう1点は、令和2年、3年にわたって2年間続けていた小澤先生がお話していた健康教育の充実についてです。児童生徒等を取り巻く社会環境の変化があり、性・エイズ教育、喫煙飲酒防止教育、がん教育、食育の推進と実践的な健康教育の推進を図る。そのような命の授業を充実させることが必要だということ。命の尊さを学び、命を大切にす教育、自分や相手1人1人を尊重する教育を推進し、命の重要性を重視する小、中、高であるということに記載していただきたいと書いたと思います。
- 小澤委員 岡部先生、それは確かに2年間私が言ってきたことですが、今回意見が反映されていないなと思っていました。教育大綱を決めるところで決まってしまうからということで、今年は意見を言わなかったのですが、実際どうなのですか。
- 高見澤課長 いただいているご意見について回答させていただいている内容を、もう一度文言になりますが、読み上げさせていただきます。
健康教育の内容については、児童生徒の発達段階によって異なるものの、概ね小学校と同様の内容を繰り返し学習していきます。生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質能力の育成を目指し、小学校ではより実践的に、中学校ではより科学的に、高等学校ではより総合的に指導していきます。保健だけでなく、他教科等との横断的な指導を通して、より実践的な健康教育の推進が図られるよう教科訪問等で指導しています。また命の授業を充実させることについては、豊かな心の人権教育、道徳教育の説明時に強調させていただきます。
ということで、ここに示す文言としてはこのようにさせていただき、具体的な説明の中で更に今の内容を盛り込みまして説明していきたいと考えております。
- 教育長 いずれにしても、網羅的に全てを盛り込むということは難しい面もあるかと思いますが。説明会等でこれ示していく中で、補足する必要がある部分については、今言っていたご意見等も踏まえながら、そういった要望もあるということを説明していただくようお願いいたします。
- 高見澤課長 はい。もう1点ご意見いただいているSOSの出し方につきましては、一方で出し方だけではなく受け止め方の指導というような、その点もしっかり取り組んでもらいたいということで、説明会の中では出し方だけでなく、それぞれ学校の発達段階に応じたSOSの受け止め方についても取り組んでもらえるように伝えていきたいと考えております。
- 教育長 説明会を有効に使いながら、補足的な説明もぜひ合わせてお願いしたいと思っております。
- 小澤委員 教育大綱や基本計画が決まっていくときに、私たちは参加できるんですか、意見を出したりできるのでしょうか。もう何年度に決まっているものだからというと、こういう話し合いでも意見する余地がないのかなといつも思うんですね。

- 望月室長 教育振興基本計画及び教育大綱につきましては、来年度改定作業を行います。そのための準備を今進めているところでございまして、教育委員につきましては、何回かご意見を伺うような機会、また場合によっては総合教育会議でも議題に上がる可能性もございます。そのような中で、いただいた意見を踏まえて新たな計画を策定していきたいと思っておりますので、またその際にご意見等をいただければと思っております。
- 岡部委員 もう1つ、いじめ・不登校への対応のところですか。不登校の児童には多様な学びの一つとして、教育支援センターやフリースクール等学校外の学びの場との連携を図ること。ICTを効果的に活用する等、粘り強く支援に努めるというようなことを記載していただきたいと書かせていただきました。ここに書いてあるのは、全て連携ですが、どの子も学ぶことは確保されるからフリースクールもありますよということや、あるいは多様な学びの場があるんだよということを説明会でお話いただければと思います。要するにICTを効果的に活用し粘り強く支援をしてほしいので、連携だけではなくて、そういうものもあるよということをお話いただければと思います。よろしくお願ひします。
- 橋本委員 教育関係の評価改善で、小学校高学年における教科担任制の推進の記載があります。中学校につながる学びとして、とても重要な項目だと思うのですが、学校の職員数やクラス数によって取り組み方が大きく変わってくると思うんですね。特に単級などの学校においては、推進といっても厳しいと思います。中学校との連携の具合にもよってきますが、かなり各学校工夫されている中で、すごく悩ましいところだと思います。そのことについて、今後専科教員の加配などの方法が考えられるのかお聞きしたいなと思います。今は学校に全てお任せで、各学校が工夫をしている状況だと思うのですが、どうなんでしょうか。
- 秋山課長 教科担任制につきましては様々な形態がございまして、国で計画的に専科教員を付けて取り組む教員の場合と、加配の教員は付かず担任同士の授業の交換や、学年を超えてある教員が複数の学年の授業を持つ等ございます。義務教育課では、今4つの地区で小中学校の研究会を立ち上げておまして、様々な形態について取り組みを行っています。更に加配や専科教員がいなければ専科教員が進まないというわけではなく、先程お話しした担任同士、例えば算数について1組の先生が2組、3組を教えたり、社会科も2組の先生が教えるというような形で、教員の教材研究の時間を省くことにより、働き方改革やより専門性の高い授業を進めるというような視点の試みも進めております。専科教員だけでなく様々な形態の教科担任制について、各学校や地域の規模によって取り組んでいただくような研究も含め、年度末に向けて全体に横展開していくような研究発表会を計画しています。
- 橋本委員 小中連携の教科についてメリットが多いと思いますが、特に推進したい教科を教えてください。小学校の教員が全て得意かというところでもないと思っています。中学校の連携がかなり重要になってくるのかなと思いますので、どんな教科を考えて教えてください。
- 秋山課長 国から昨年7月に4つの教科、算数、体育、理科、外国語が例示されました。これらの教科だけではなく、音楽については、以前から専科教員を置いている地域がございまして、推奨する教科につきましては、国からの例示も踏まえつつ、各学校の職員体制などにより取り組みを行います。本県で一番多いのは理科、算数でございます。英語は専科教員とは別の加配により、中学校の先生が地区の小学校を回る形で取り組んでいる地区もございまして。
- 橋本委員 はい、ありがとうございました。

【 了 知 】

[教育長閉会宣言]

以 上